

第12回 中部地方水供給リスク管理検討会 (R5. 3. 22 開催) 議事要旨

議事(1) 前回(第11回)の議事要旨

第11回検討会(R4. 2. 3開催)の議事要旨を紹介した。

議事(2) 供給遮断影響・被害の検討

● 水量不足(影響・被害)、供給遮断(外力・事象)の検討

令和4年に発生した事故・災害時の状況、木曾川水系の供給遮断による影響・被害および、これまでの検討概要について検討した。

供給遮断時の影響・被害については、生活用水(上水道)や工業用水・農業用水は、供給水源利、取水口や供給される市町により影響・被害の大きさに差がある。

R4に発生した給水障害の事象と今までの本検討会で指摘事項を踏まえ、留意する事項について意見交換を行った。

〈意見等〉

- 多重性・多水源化は、ネットワークのみでなく量的な確保も必要であり、供給遮断と水量不足の問題は切り離せない。気候変動による影響も含め渇水と同時生起的な供給遮断も意識する必要がある。
- 多重性、冗長性が一つのキーワードだが、受益地の相互の水の融通が可能か、他用途間の融通がどこまで可能かがポイントになる。
- 事前放流や弾力的運用などダム貯水池内の目的別の水の融通についても議論が必要。
- 供給遮断のシナリオは、供給系統図を用いて今後さらに具体的な事象への対応を検討していくとよい。供給遮断の影響が大きいところでは、水のやり取りを含めた対策を検討していく必要がある。
- 自然災害と施設の老朽化がかなり大きな影響となっている。未曾有の災害時では、施設の復旧期間の設定や見込みや妥当性などを追加して検討していくことが必要。明治頭首工、静岡の事例がこれまでの検討の中にどう位置づけられるのか明らかにしたほうが今後の検討に役立てられる。
- 愛知県は全国有数の農業県であり、四季や農業被害の最大期、最小期など想定し、農水被害額も出してはどうか。
- 明治頭首工の事案では、農業用水や工業用水の影響については、クローズアップされ

た報道も多かったが、なぜ上水道は大丈夫だったのかという報道はあまりなかった。どのような対応を行ったため、供給に影響がなかったという報道があれば、市民の中にも意識付けが出来るのではないか。

- 明治頭首工の事案では、経済界にとって大きな衝撃であり、知多の石油精製、火力発電など経済活動に大きな影響があった。愛知県は、工業はもとより農産品の出荷も全国の大きなシェアを占めているので、工業用水・農業用水の供給が止まると影響が非常に大きくなると考える。
- 南海トラフ地震に備えた社会インフラの整備、施設の老朽化は、喫緊の課題である。
- 危機的な渇水では、どこまで我慢できるか、使い方により水量にかなり幅がある。水資源の確保と危機管理を理解いただくためにも利用用途を理解いただく必要がある。また、自己水源の表流水取水は、木曽川と同様な気象影響を受けるため、渇水時には木曽川と同様な影響がある。それぞれの自己水源がどのような特徴をもっているのか整理したほうがよい。地下水の利用が多い地域は、利用状況も含め地盤沈下の観点からも検討が必要である。
- 木曽川水系連絡導水路の効果について検討してはどうか。渇水の問題も最悪な事態を想定することは国土強靱化のために非常に大事。木曽川水系連絡導水路は重要であり、強靱な中部、レジリエントな中部をつくっていく上で重要な事業である。
- 水量不足は長期的、供給遮断は突発的な事象であるが、渇水が起きている状況で大規模な地震が起きたり、地震により老朽化した施設が被災するというような色々なケースを網羅的に検討することも必要ではないか。
- 生活用水の年間の水利用が変化していることを把握することが非常に大事。温度変化に伴う農事暦の変化について、水利用に影響する可能性があるため、見ておく必要がある。
- 生活用水は夏・冬が平準化し、年間の水の使い方では、節水機器の導入で使用が抑えられ、夏場のエアコンなどでシャワーが減るなど、年間一定になったと定性的に考えられる。河川の流量は変化するので、一年を通して同じ量の水を供給出来るよう調整が必要である。
- 水需要の変化率の傾向だけでなく、電気、農業も年間の使用は変化しており、気候変動を考える上で重要である。水力発電容量の使い方について、水供給の視点で少し留意することも必要。
- 地下水取水による地盤沈下のリスク、季節による水の使い方の変化はしっかり把握し留意することが必要である。
- 供給遮断、水量不足についても冗長性問題はしっかり考えていかなければならない。

今後、人口推移どうなるか、インバウンドがもたらす影響、将来的にはスーパーメガリージョンの構想で、世界一大きな経済規模の地域が出来上がる。そういった推移も含め水の利用を考えていかなければならない。